

SSL 18 の紹介

26 イン/28 アウト、高性能 USB オーディオインターフェース

ソリッドステートロジックの名高い USB オーディオインターフェースラインの頂点に位置する SSL 18 をご紹 介します。

SSL18 は、19 インチ USB オーディオインターフェースの期待をさらに高めるものです。

その他のプロフェッショナルな機器と簡単に統合できるため、レコーディング、プロデュース、ミキシングを問 わず、本格的なプロジェクトスタジオの究極のセンターピースとなります。

SSL 18 を選ぶ理由

クラス最高のオーディオパフォーマンス

次世代の 32-bit/192 kHz コンバーターは、SSL 18 のアナログ設計を際立たせます。

マイク、ラインレベル、インストゥルメント入力すべてにおいて 120 dB のパフォーマンスを発揮し、かつてな いほどソースをキャプチャーします。

そしてモニター出力とライン出力では、125 dB という驚異的なダイナミック・レンジを実現し、妥協のない忠実 さで音楽を聴くことができます。

ヘッドフォンで作業する場合、デュアルヘッドフォン出力が提供する比類ない 120 dB のダイナミックレンジが あれば問題ありません。

究極のスタジオハブ

SSL 18 は、+24 dBu 対応の入出力により、プロフェッショナルなアウトボード機器と適切に統合できるように 設計された、このカテゴリーで唯一の製品です。

さらに、すべてのアナログ出力は DC カップリングされており、シンセサイザーにコントロール電圧を送るのに 理想的です。

豊富なデジタルオーディオ接続により、SSL 18 は ADAT 経由で 16 チャンネル、S/PDIF 経由でさらに 2 チャン ネルを増設できます。

19 インチラック パーソナル SSL レコーディングスタジオ

SSL 18 は、SSL を備えたスタジオに求められるすべての柔軟性を提供します。専用のトークバック入力に加え、著名なLMC(リスンマイクコンプレッサー)を搭載、ALT スピーカー切り替えや、どんなヘッドフォンにも対応可能なヘッドフォン出力を備えています。

また、出力9と10を入力1および2のアナログインサート送信として再設定できるため、アナログ処理をインライン で使ったトラッキングにも最適です。 SSL 360°を搭載した SSL 18 ミキサー

SSL 18 のオンボードローレイテンシーミキサーは、SSL 360°でコントロール可能です。

ヘッドフォンミックスのダイヤル、メーターの設定、フロントパネルのボタンのカスタマイズなど、様々なこと が可能です。

バーチャルな SSL コンソール環境のようで、多忙なセッションを一元管理するのに最適です。

卓越したエンジニアリング

アナログとデジタルのミキシングコンソールに定評のある SSL のエンジニアリングチームによって設計され、 SSL の豊かな伝統とマルチトラックオーディオのノウハウが随所に散りばめられています。

クラスをリードするマイクプリアンプから、Alps[®]ポットや Neutrik[®]コネクターといった業界グレードのコンポ ーネントの選択まで、SSL 18 はワールドクラスのレコーディングスタジオが期待するクオリティを、そのまま あなたのスタジオにお届けします。

特徴

・26 イン/28 アウトの Mac/Windows 用 USB オーディオインターフェース

- ・8 系統の SSL 設計マイク/ラインレベル入力
 4K アナログエンハンスメント、極性反転、ハイパスフィルター、各チャンネル 48V ファンタム電源
 ライン入力はプリアンプをバイパスし、外部プリアンプとの統合に最適
 入力1と2には設定可能なアナログインサートポイントを装備
- ・アナログ機材でのトラッキングに最適
 インプット1と2はインストゥルメントレベルに切り替え可能
- ・10 系統の DC 結合バランスライン出力 ペア 1&2、3&4 のスピーカー切り替えが可能 モニターに最適な+9 dBu/+24 dBu 出力レベル設定オプション(ペア 1&2、3&4) DC カップリング出力は、シンセサイザーやモジュラー・リグにコントロール電圧を送るのに最適
- ・2系統の独立したパワフルなヘッドフォン出力(専用レベルコントロール付き)
 異なるヘッドフォンインピーダンスに対応する3つのモードオプション
 標準、高感度、高インピーダンス
 カスタムヘッドフォンミックスの作成
 ライン出力として再利用可能
- ・リッスンマイクコンプレッサー(LMC)付き専用トークバック入力 トークバック入力は LINE モードでも使用でき、ミキシング時に LMC を通して処理することができます
- プロ用アウトボード機器をハードウェアインサートとして統合するのに最適
- ・16 チャンネル ADAT I/O (44.1/48kHz)、8 チャンネル (96kHz)
- ・2 チャンネルの S/PDIF (同軸またはオプティカル)
- ・MIDI I/O は 3.5 mm TRS ジャック(タイプ A)
- ・柔軟なクロッキングオプション

入出力の動作レベル+24 dBu

内部クロック(Wordclock 出力あり)、または入力される ADAT または S/PDIF からのクロック

・次世代 32-bit/192 kHz コンバーター

- ・あらゆる分野でクラスをリードするオーディオパフォーマンス
 卓越した-130.5 dBu EIN と 67 dB のゲインレンジを持つクラス最高の低ノイズマイクプリアンプ
 すべての入力とヘッドフォン出力でクラス最高の 120 dB のダイナミックレンジ
 モニター出力とライン出力にはクラス最高の 125 dB のダイナミックレンジ
- ・SSL 360°による SSL 18 低レイテンシーミキサー
 SSL18 の全ての入出力を包括的に管理
 コントロールルームのモニターミックスの作成と管理
 UDD (コニント)
 UDD (コニント)
 - HPA (ステレオ)、HPB (ステレオ)、LINE 3-4 (ステレオまたはデュアルモノ) の4つのカスタムモニター ミックスを簡単に作成可能
 - 柔軟なミラールーティングシステムにより、任意のインプットやAuxマスターを直接アウトプットに ルーティング可能でパーソナルモニタリングシステム、外部メータリング、アウトボード FX に最適 モニタリングセクションのフロントパネルボタンをワークフローに合わせてカスタマイズ可能 (デフォルトは CUT モニタリング、ALT モニター切り替え、TALKBACK オン/オフです) 様々なワークフローに対応する SSL 18 Mixer プロファイルのセーブ/ロード
 - ・ループバックソースを選択可能なステレオループバック
 - ・SSL プロダクションパックソフトウェアバンドル





ADDITIONAL ANALOGUE OUTBOARD PROCESSING

はじめに

開梱

箱の中には以下のものが入っています: SSL 18 安全ガイドおよび保証規定 USB 'C' - 'C' USB ケーブル USB 'C' - 'A' アダプター IEC 電源ケーブル

USB ケーブルと電源

付属の USB ケーブルで SSL 18 をコンピューターに接続してください。SSL 18 の背面にあるコネクターは「C」 タイプです。お使いのコンピュータの USB ポートの種類によって、USB C - A アダプターが必要かどうか決ま ります。

最高の安定性とパフォーマンスのために、付属の USB ケーブルとアダプターを使用することをお勧めします。 より長いケーブルを使用することも可能ですが、ケーブルの品質によって電圧降下の度合いが異なります。 電源用ケーブルは付属の物を使用してください。

SSL 18 の登録

SSL USB オーディオインターフェイスをご登録いただくと、SSL や業界をリードするソフトウェア会社から提供される限定ソフトウェアの数々をご利用いただけます。

このバンドルは 「SSL Production Pack 」と呼ばれています。

http://www.solidstatelogic.com/get-started



製品を登録するには、www.solidstatelogic.com/get-started にアクセスし、画面の指示に従ってください。 登録プロセスでは、本機のシリアル番号を入力する必要があります。シリアル番号は、下図のように本体底面の ラベルに記載されています。

シリアル番号は「S18」から始まります。

登録が完了すると、ログインしたユーザーエリアですべてのソフトウェアコンテンツをご利用いただけます。 www.solidstatelogic.com/login から SSL アカウントにログインし直すことで、いつでもこのエリアに戻りソフ トウェアをダウンロードすることができます。 クイックスタート

ドライバーのインストール

1. 付属の USB ケーブルで SSL USB オーディオインターフェースをコンピューターに接続します。



2. (Windows) SSL 18 USB ASIO/WDM Driver をダウンロードしてインストールします。 SSL18 Windows ASIO/WDM Driver



SSL USB コントロールパネル (Windows のみ)

Windows をお使いで、本機を動作させるために必要な USB オーディオドライバーをインストールした場合、 インストールの一環として、SSL USB コントロールパネルがコンピューターにインストールされます。 このコントロールパネルでは、SSL 18 のサンプルレートやバッファサイズなどの詳細が表示されますが、

サンプルレートとバッファーサイズは、DAW が開いたときにコントロールされます。

SSL USB Control はクロックソースの設定も可能で、内部クロック、ADAT (Optical 1)、S/PDIF (Coaxial)の いずれかを選択できます。

コントロールパネルでは、SSL 18 を ASIO デバイスに割り当てることもできます。

複数の SSL USB デバイスで動作する複数の ASIO アプリケーションを単一のシステムまたはマルチクライアン ト環境で使用することができます。

Status	Format	Sample	Rate	Clock Source
ASIO Device	Buffe	r Settings	Info	About
ASIO 1: SSL ASIO	Driver 1			\ \
ASIO 1: SSL ASIO	Driver 1			
ASIO 2: SSL ASIO	Driver 2			
ASIO 3: SSL ASIO	Driver 3			
ASIO 4: SSL ASIO	Driver 4			
Device Info				

SSL18 への 4 つの ASIO ドライバースロットの 1 つにインターフェイスをリンクする詳細な説明は、こちらの記 事をご参照ください。ASIO SETTING

セーフモード

SSL USB コントロールパネルからコントロールできることの一つに、'Buffer Settings'タブにあるセーフモード のチェックボックスがあります。セーフモードはデフォルトではチェックが入っていますが、チェックを外すこ ともできます。セーフモードのチェックを外すと、デバイスの全体的な出力レイテンシーが減少します。 レコーディングで可能な限り低いラウンドトリップレイテンシーを実現したい場合に有効です。

しかし、このチェックを外すと、システムに負荷がかかっている場合に予期せぬポップノイズ等が発生すること があります。

Status	Format	Sample	Rate	Clock Source
ASIO Device	Buffer S	Settings	Info	About
SIO 1: SSL AS	IO Driver 1			
	D. #			
Preferred ASIO	Buffer Size			
	Durfer Size	_		
2048 samples		🗸 🔽 Safe	Mode	
2048 samples		🗸 🔽 Safe	Mode	
2048 samples ASIO Status	e Rate: 96000 Hz	🗸 🔽 Safe	Mode	
2048 samples ASIO Status Current Sampl	e Rate: 96000 Hz	Safe	Mode	
2048 samples ASIO Status Current Sampl Input Latency Output Latency	e Rate: 96000 Hz : 2192 samples (22. :v: 2544 samples (2)	Safe 83 ms) 6.50 ms)	Mode	

Mac の場合:

"システム環境設定"から'サウンド'を選択し、入出力デバイスとして'SSL 18'を選択します。 Mac ではオーディオ関連ドライバーは必要ありません。

•••	< > Sound	< > Sound					
Q Search	Output & Input	Output & Input					
Luke Aziz Apple ID	Output	Input					
Out the lot of	Name	Туре					
Start Using ICloud	SSL 18	USB					
🛜 Wi-Fi	MacBook Pro Speakers	Built-in					
Bluetooth	Pro Tools Audio Bridge 16	Virtual					
Network	Pro Tools Audio Bridge 2-A	Virtual					
	Pro Tools Audio Bridge 2-B	Virtual					
Notifications	Pro Tools Audio Bridge 32	Virtual					
Sound	Pro Tools Audio Bridge 64	Virtual					
	Pro Tools Audio Bridge 6	Virtual					
Focus	Splashtop Remote Sound	Virtual					
Screen Time	Pro Tools Aggregate I/O	Aggregate device					
Conoral	VB-Cable	Virtual					
	[LG] webOS TV OLED65A16LA	AirPlay					
 Appearance Accessibility 	Applications may be able to access head pose information when playing spatialised audio.						

SSL 360° ソフトウェアのダウンロード

SSL 18 と低レイテンシーミキサーをコントロールするには、SSL 360°をインストールする必要があります。 SSL 360°は SSL18 Mixer の頭脳であり、すべての内部ルーティングとモニタリング設定をコントロールします。 前のページで説明したように、SSL 18 ハードウェアをコンピューターに接続したら、SSL 360°を SSL のウェブ サイトからダウンロードしてください。



SSL 360 は、SSL Download Manager アプリケーションからダウンロードするか、

こちらから直接ダウンロードしてください。 SSL Support>Controllers>SSL360





- 1. ダウンロードした「SSL 360°.exe」をコンピュータ上で確認します。
- 2. 「SSL360°.exe」をダブルクリックして実行します。
- 3. 画面の指示に従ってインストールを進めます。

Mac の場合:



• • •	🥪 Install SSL 360°	
	Welcome to the SSL 360° Installer	
 Introduction Destination Select Installation Type Installation Summary 	You will be guided through the steps necessary to install this software.	
	Go Back Continu	е

ダウンロードした SSL 360°.dmg をコンピュータに置きます。 .dmg をダブルクリックして開きます。 ダブルクリックして SSL 360°.pkg を実行します。 画面の指示に従ってインストールを進めます。 DAW のオーディオデバイスとして SSL 18 を選択する

ここまでのクイックスタート/インストールに従った場合、お気に入りの DAW を開き、制作を開始する準備が できています。もちろん、Mac では Core Audio を、Windows では ASIO/WDM をサポートしている DAW であ れば、どの DAW でも使用できます。

どの DAW を使用する場合でも、オーディオ環境設定/再生設定で SSL 18 がオーディオデバイスとして選択され ていることを確認する必要があります。以下は Pro Tools での例です。不明な場合は、DAW のユーザーガイド を参照して、これらのオプションがどこにあるか確認してください。

	Playback Engine
Device Playback Engine:	SSL 18
Settings H/W Buffer Size: Video Engine:	128 Samples
Optimizations ?	Ignore Errors During Playback/Record for: May cause clicks and pops Main Playback Engine Minimize Additional I/O Latency Aux I/O Dynamic Plug-in Processing Plug-ins only use CPU resources when processing audio Optimize Performance at Low Buffer Sizes Certain plug-ins may cause brief system hangs Limit Number of Real-Time Threads Reduces contention with non-Pro Tools processes
Disk Playback Cache Size:	Normal Lower values reduce memory usage. Higher values improve disk performance.
	ОК

Pro Tools の例

Pro Tools を開き、'Setup'メニューから'Playback Engine...'を選択します。Playback Engine'として SSL 18 が選択 されていることと、'Default Output'が Output 1-2 であることを確認してください。

注意:Windows の場合、最高のパフォーマンスを得るために、'Playback Engine'が'SSL 18 ASIO'に設定されてい ることを確認してください。 SSL 18 フロントパネルコントロール



1. インプット 1&2

XLR/ジャックコンボ入力は、マイクレベル (XLR)、ラインレベル (TRS)、インストゥルメントシグナル (TS) に対応しています。

マイク/ラインの切り替えは、フロントパネルまたは SSL 360°の SSL 18 Mixer ソフトウェアから行います。 インストゥルメント入力の切り替えは、SSL 18 Mixer ソフトウェア経由でのみ可能です。

チャンネル1と2で作業する場合、インストゥルメント入力に切り替えるとLINEのLEDが黄色に切り替わり、 フロントのXLR/ジャック入力 1-2 から供給されるインストゥルメントモードで動作していることを示します。 インストゥルメントモードでは、外部 D.I.を使用せずにギターやベースを録音できます。

インプット 3-8 とトークバックはリアパネルにあります。

2. チャンネルセレクト

アナログ入力チャンネル (1-8) を選択します。選択したチャンネルの各種機能 (+48V、MIC/LINE、HIGH PASS FILTER、POLARITY INVERT、4K MODE) のオン/オフをパネル中央のボタン(4,5,6,7)で切り替えることができます。

3. GAIN

このコントロールは、マイク、ラインレベル、またはインストゥルメントの信号に適用されるプリアンプゲイン を調整します。歌っている間、楽器を演奏している間、メーターLED の3つの緑の LED が点灯する位にこの コントロールを調整してください。

4. +48V

選択したチャンネルのファンタム電源の有効 / 無効を切り替えます。48V の有効/無効を切り替えると、LED が 数回点滅し、オーディオが一時的にミュートされます。

ファンタム電源は、コンデンサーマイクまたは特定のアクティブリボンマイクを使用する場合に必要です。 ダイナミックマイクやパッシブリボンマイクはファンタム電源を必要としませんが、場合によってはマイクにダ メージを与える可能性があります。疑わしい場合は、マイクロホンを接続する前に+48V がオフになっているこ とを確認し、マイク製造元のユーザーマニュアルを参照し、正しく動作することを確認してください。

※ +48V ボタンの機能は、SSL 360°で変更することはできません。

5. LINE

このスイッチは、選択されたチャンネルの入力をマイクとラインの間で切り替えます。

ラインレベルのソース(キーボードやシンセモジュールなど)は、ソケット中央の TRS ジャック部分に接続す る必要があります。LINE 入力はプリアンプセクションをバイパスするため、外部プリアンプの出力を接続する のに適しています。LINE モードでは、GAIN コントロールにより最大 17.5dB のクリーンゲインが得られます (MIC モードでは最大 67dB)。

6. ハイパスフィルター

選択チャンネルのハイパスフィルターのオンオフを切り替えます。入力信号から不要な低域を除去し、不要な雑 音を一掃するのに最適です。フィルターは 75Hz に設定され、スロープは 18dB/オクターブです。

7. レガシー 4K - アナログエンハンスメント

選択したチャンネルの 4K アナログエンハンスメント処理のオンオフを切り替えます。高域の EQ ブーストと微 調整されたハーモニックディストーションを組み合わせて注入し、サウンドを向上させます。

ボーカルやアコースティックギターなどのソースに特に心地よい効果がある時があります。

このエンハンスメントエフェクトは完全にアナログドメインで作られており、伝説的な SSL 4000 シリーズコン ソール(しばしば'4K'と呼ばれる)がレコーディング時に加えることができた、独特なキャラクターにインスパ イアされています。4K スイッチをオンにすると、ほとんどのソースがよりエキサイティングになることがわか ります。

※ LINE、HIGH-PASS FILTER、4K ボタンは、SSL360°で割り当て変更することができます。例えば、選択 したチャンネルの POLARITY INVERT 機能を切り替えることができます。

8. LED メーター

アナログ入力 1-8 の入力レベルまたは出力レベルを表示します。インプットに設定されている場合、レコーデ ィングでは「-20」マーク(3 番目の緑色のメーターポイント)を目安にするとよいでしょう。時折「-10」にな っても構いません。信号が「0」(一番上の赤い LED)に達している場合は、クリッピングしていることを意味し ますので、GAIN コントロールを下げるか、楽器からマイクを離す等の何らかの対処が必要です。 スケールの単位は dBFS です。

出力 1-2 専用のメーターが右側にあります。

出力メーターの下には、現在の動作サンプルレートに関する情報も LED パネルに表示されます。 44.1 kHz と 48 kHz の表示と x2/x4 表示を合わせて 88.2 kHz,96 kHz,172.4 kHz,192 kHz を表示します。

また、ADAT または S/PDIF 経由の外部クロックを示す DIGI と、内部クロックを示す USB マークによるクロ ックソース情報があり、その下にはメーターが入力信号か出力信号かを表示する IN と OUT があります。 これは SSL 360° ミキサーページからコントロールできます。



9. MONITOR LEVEL (青のコントロール)

モニターレベルは、OUTPUT1(Left)と2(Right)からモニターへ送られるレベルに直接影響します。 ノブを右に回すと音量が大きくなります。

ALT SPK モードがオンの場合、OUTPUTS 3 と 4 に接続されたモニターも MONITOR LEVEL CONTROL で コントロールされます。

10. CUT

モニター出力信号をミュートします。

11. ALT

モニターバスを、OUTPUTS 3&4 に接続した別のモニタースピーカーに切り替えます。 この機能を使うには、SSL 360°で ALT SPK ENABLE をアクティブにします。

12. TALK

このボタンでオンボードのトークバックマイク入力をオンにします。この入力信号は SSL 360°の SSL 18 Mixer ページで、ヘッドフォン A、ヘッドフォン B、ライン 3-4 (ライン 3-4 が ALT モニターとして使用されていない 場合)の任意の出力にルーティングできます。

注意:以上の説明の中で10、11、12と注釈されているインターフェース・ボタンも SSL 360° でユーザー割り 当て可能ですが、デフォルトではフロントパネルの表示(CUT、ALT、TALK)に設定されています。 再割り当てを行うには、SSL 360° にアクセスしてこれらのボタンを右クリックすると、割り当て可能な機能の リストが表示されます。

13. ヘッドフォン出力

HPAとHPBには2組のヘッドホンを接続することができ、アーティスト用とエンジニア用の独立したミック スに設定することができます。デフォルトでは、どちらもモニターコントロールミックス(Mix1-2)に従います。 これらを独立したミックスにするには、SSL 360°の「Follow Mix 1-2」ボタンを無効にします。

出力レベルは、フロントパネルの HPAと HPB コントロールで設定します。

SSL 360°では、異なるヘッドフォン・インピーダンスに最適な HP A と HP B の出力パワーを設定できます。 詳しくは SSL 360°SSL 18 Mixer のセクションを参照してください。

14. POWER

POWER ボタンは、本機の電源のオンオフを切り替えます。



1. 電源

IEC 電源インレット。

2. ワードクロック出力 ワードクロック出力 75 オーム BNC 接続。

3. USB

USB 'C'タイプコネクター - 付属の USB ケーブルを使用して SSL 18 をコンピューターに接続します。

4. MIDI IN & OUT

MIDI (TRS 3.5mm ミニジャック'タイプ A'規格) IN と OUT により、SSL 18 を MIDI インターフェースとして 使用することができます。MIDI IN はキーボードやコントローラーからの MIDI 信号を受信し、MIDI OUT は MIDI 情報をシンセやドラムマシン、その他 MIDI コントロール可能な機器へトリガーとして送信することがで きます。

注意:タイプBのピン配列 MIDI ジャックは使用できません。必ずタイプAをご使用ください。

5. 同軸 S/PDIF 入出力

S/PDIF デジタルオーディオ入出力は同軸接続で提供され、192 kHz までのすべてのサンプルレートで動作します。

6. オプティカル ADAT | S/PDIF I/O

4 つのオプティカルポートにより、44.1/48 kHz の ADAT で最大 16 チャンネル、または 88.2/96 kHz の 8 チャ ンネルのデジタルオーディオ入出力を追加できます。

S/PDIF 機器がオプティカル接続のみで、同軸入力を備えていない場合、オプティカル IN 2 と OUT 2 を S/PDIF 入出力用に設定することができます。

S/PDIF 接続を同軸と光接続の間で切り替えるには、360°ミキサーページの設定タブで行います。変更を適用 するには、電源の再投入が必要です。

Coax 🔍	Power cycle SSL 18 to apply						
Optical							
Coax							

7. INS RTN 1 & 2

「INS RTN 1 & 2」と記されたジャックソケットは、 アナログインプット 1 と 2 のインサートリターンパス です。これらの隣には、9/1 SND & 10/2 SND と書かれた出力があります。

デフォルトでは、これらは SSL 18 の標準出力 9 と 10 として機能します。しかし、SSL 360° SSL 18 Mixer Settings メニューでは、出力をインサートセンドとして再利用することができます。この設定が完了すると、SSL 18 Mixer のページに INSERT ボタンが表示され、オン/オフを切り替えることができます。

この機能により、インプットパスに外部アナログ機器をインサートで使用することができます。

チャンネル 1 と 2 がステレオで配置されている場合、INSERTS 1 と 2 は、マスターバス処理などのソースや、 ドラムオーバーヘッドやキーボードなどのステレオソースに対してステレオペアとして使用することができま す。

ミキサーページのフェーダートレイには、チャンネル1と2でのみ使用可能なインサートボタンがあります。



セッティング・メニューで INSERTS を設定し、'Use Line Output 9/10 as Insert Send 1/2'を両方とも選択する まで、インサートボタンはグレー表示になり使用できません。

インサートボタンを選択可能に設定し、アクティブになると黄色に点灯します。





上図は、インターフェイス背面のインサートの配線接続を示しています。

8. 10 x BALANCED OUTPUTS 1/4" TRS ジャック出力ソケット

出力1と2は主にメインモニターとして使用し、物理的なボリュームはインターフェイス前面のモニターノブで コントロールします。出力3&4 はセカンダリーALT モニターとして設定できます (ALT ボタンがオンになって いる場合、モニターノブで切り替え可能)。

出力ペア 1&2 と 3&4 は、SSL 360°で+24 dBu と+9 dBu に切り替え可能です。

出力 3~10 は、+24 dBu 出力動作レベルに固定されています。

すべての出力(ヘッドフォン出力を含む)は DC カップリングされ、+/-5V 信号を送ることができ、セミモジュ ラーシンセ、Eurorack、CV 対応アウトボード FX への CV コントロールが可能です。

注意:詳細については、このユーザーガイドの Ableton[®] Live CV Tools による CV コントロールのセクションを ご参照ください。

DC カップリング出力を使用する際に注意すべき点がいくつかあります:

出力 1-2 を CV 出力に使用する場合、モニターコントロールノブが信号に影響を与えていることを忘れないでく ださい。接続する CV コントロールのシンセサイザー/FX ユニットに最適なレベルを調整する必要があります。 360°ミキサーのメーターは、DC 信号を表示することができます。

9. T/B INPUT

コンボ XLR / 1/4" ジャック入力ソケット。マイクレベル入力 (XLR) とラインレベル入力 (TRS)。

リッスン・マイク・コンプレッサー (LMC) 付きのトークバック専用入力。LMC は SSL 360° でオン/オフできます。

トークバック入力にはプリアンプが内蔵されており、SSL18 SSL 360° ミキサーで 3 つの固定ゲイン設定を選択 できます: 30/40/50 dB。

トークバックマイクが必要とする場合は、+48Vに設定することもできます。

トークバック入力は LINE 入力モード(TRS ジャック接続)に切り替えることができ、外部トークバックマイク のプリアンプを使用したい場合に便利です。

10. インプット 3-8

コンボ XLR / 1/4" ジャック入力ソケットです。

リアにある 6 つのコンボジャックは、マイクレベル(XLR)とラインレベル(TRS)の入力に対応しています。

XLR/ジャックコンボ入力は、マイクレベル(XLR)またはラインレベル(TRS)に対応しています。マイク/ラ インの切り替えは本体フロントパネルから、または SSL 360°の SSL 18 Mixer ソフトウェアから行えます。

SSL 360°

概要

SSL 18 は、SSL 360°内の SSL 18 ページで設定します。SSL 360°は、他の SSL 360°対応製品も管理する Mac と Windows のクロスプラットフォームアプリケーションです。



ホーム画面

1. メニューツールバー

このツールバーから SSL 360°の様々なページに移動できます。

2. SSL 18 ミキサー

このタブは SSL 18 インターフェースミキサーを開き、システム内の SSL 18 インターフェースのルーティング、 入力チャンネルと再生管理、モニターコントロールと設定を可能にします。 SSL 18 360° ミキサーの詳細につ いては、次の章で説明します。

3.接続ユニット

このエリアには、お使いのコンピューターに SSL 360°を使用するハードウェア (SSL 18、SSL 12、UF8、UF1、 UC1)が接続されているかどうかが、シリアル番号とともに表示されます。 ユニットが接続されてから検出されるまで 10~15 秒かかります。

4. ファームウェアアップデートエリア

SSL 18 のファームウェアアップデートが利用可能になった場合は、ファームウェアの更新ボタンが各ユニットの下に表示されます。 ボタンをクリックするとファームウェアのアップデートが開始されます。

5.スリープ設定(UF8、UF1、UC1 にのみ適用され、SSL 18 には適用されません。) これをクリックするとポップアップウィンドウが開き、接続した 360° コントロールサーフェスがスリープモー ドに入るまでの時間を設定できます。

6.About

これをクリックすると、SSL 360°に関連するソフトウェアのライセンスに関する詳細がポップアップウィンド ウで表示されます。

7. SSL ウェブサイト

このリンクをクリックすると、直接ソリッドステートロジックのウェブサイトに移動します。

8. SSL サポート

このリンクをクリックすると、直接ソリッドステートロジックサポートのウェブサイトに移動します。

9. SSL ソーシャル

下部のバーには SNS 関連へのクイックリンクがあり、最新のニュース、製品チュートリアル等のアップデート を確認することができます。

10.エクスポートレポート

SSL 18 または SSL 360°ソフトウェアに問題が発生した場合、エクスポートレポートが必要な場合があります。 この機能は、お使いのコンピューターシステムと SSL 18 に関する重要な情報と SSL 360°アクティビティに関 する技術ログファイルを含むテキストファイルを生成します。

これをクリックすると、生成された.zipファイルの保存先を選択するよう求められます。

場合によっては SSL サポート部門へ送付をお願いする場合があります。

11. ソフトウェアのバージョン番号と更新ボタン

このエリアには、お使いのコンピュータで実行されている SSL 360°のバージョン番号が表示されます。 ソフトウェアのアップデートが利用可能になるとソフトウェアの更新ボタン(上図)が表示されます。 これを クリックすると、ソフトウェアがダウンロードされアップデートされます。[i]マークをクリックすると、イン ストールされている SSL 360°のバージョンに関する SSL ウェブサイトのリリースノート情報が表示されます。 SSL 18 ミキサーページ



SSL 360°を搭載した SSL 18 ローレイテンシーソフトウェアミキサーは、セッションを完全にコントロールすることができます:

- ・すべての入出力を SSL 18 ローレイテンシーミキサーで包括的に管理
- ・コントロールルームのモニターミックスの作成と管理
- ・HPA (ステレオ)、HPB (ステレオ)、LINE 3-4 (ステレオまたはデュアル・モノ)の4つのカスタムモニタ ーミックスを簡単に作成可能
- ・任意のインプットや Aux マスターを直接アウトプットにルーティングするフレキシブルなミラールーティングシステム パーソナルモニターシステム、外部メーター、アウトボード FX への出力に最適
- ・モニタリングセクションのフロントパネルボタンをワークフローに合わせてカスタマイズ可能
- ・デフォルトは CUT モニター、ALT モニター切り替え、TALKBACK オン/オフ
- ・様々なワークフローに対応する SSL 18 ミキサープロファイルの保存/ロード

VIEW



ミキサー内でビューボタンを押すと、インプットチャンネルタイプ(アナログインプット、デジタルインプット、 プレイバックリターン)と Aux マスターの表示/非表示 切り替えが可能です。

アナログ入力



1.メーター

メーターは、チャンネルに入力されるシグナルレベルを示します。 メーター上部の赤いセグメントはクリッピ ングを示します。 メーター部分をクリックするとクリップ表示はクリアされます。

+48V、LINE、 ハイパスフィルター、極性反転、4K 機能は、ハードウェアまたは SSL 18 ソフトウェアミキ サーからコントロールできます。

INST ファンクション(チャンネル1と2で使用可能)は、ベースギターなどの楽器をレコーディングするための Hi-Z インプットを作動させます。 これはソフトウェアミキサーでのみコントロールできます。

2. ヘッドフォンセンド

HPA、HPB アウトプットの独立したミックスを作成します。

- ・緑のノブは、各 Aux Bus (HP A、HP B、) へのセンドレベルをコントロールします。
- ・ MUTE ボタンはセンドをミュートし、オンにすると赤く点灯します。

· Pan コントロールでセンドのパンを決定します。この PAN ボタンが有効でなければパンは効きません。

PAN がオフの場合、センドはフェーダーセクションのメインモニターバスのパンコントロールに従います。
 ヒント Shift + マウスクリックでセンドボリュームを 0 dB に設定します。

Option+ マウスクリック (Mac) または Alt + クリック (Windows) は、センドをオフに設定します。

3.LINE 3-4 センド

ヘッドフォンセンドと同様、LINE 3-4 センドは、信号をアウトプット 3-4 にルーティングします。 出力チャンネルがステレオリンクされている場合、パン、レベル、ミュートのコントロールが1 セットで表示さ れます。 出力チャンネルをデュアルモノにスプリットした場合、出力 3 と出力 4 にそれぞれ独立したレベル コントロールが表示されます。 デュアルモノにスプリットするには、LINE 3-4 バス マスターの下部にある リンクボタンを解除する必要があります。



4.スクリブルストリップス

各チャンネルの入出力のタイプや番号の順番を示すテキストボックスです。 これらのテキストボックスは編集 可能であり、360°ミキサーの各チャンネルの名称を変更することができます。 テキストボックスをダブルクリ ックし、任意の名称を入力してください。

5. Pan コントロールは、Monitor Bus ステレオイメージにおける L/R 信号の位置を決定します。

6.フェーダートレイセクション

ミキサーのフェーダートレイセクションでは、モニターバスへ送られるシグナルをコントロールします。 モニターバスフェーダーは以下のパラメータで構成されています。

- ・パンは前述の通りです。
- ・ソロボタンでモニターバスのチャンネルをソロにします。アクティブにすると黄色に点灯します。
- ・CUT ボタンは信号をカットします。 すべてのポストフェーダーセンド、モニターバス、ミラールートに影響 が及びます。 プリフェーダーと DAW へのレコードセンドのみ影響を受けません。 アクティブにすると赤く 点灯します。
- ・インサートボタンを押すと、アナログアウトボード機器をインプット1と2のレコードパスに挿入できます。
 これを行うには、出力9と10をSSL18ミキサーの設定メニューでインサートセンドとして再設定する必要があります。
 もしインサートボタンがグレーアウトしている場合、未設定です。
- ・MON ボタンは信号をモニターバス(出力 1-2) にルーティングします。
- ・フェーダーでレベルをコントロールし、12dBから -◎ dBの範囲で調整できます。

ヒント: Shift + マウスクリックまたは Option+クリックでフェーダーを 0 dB に設定します(Mac)。

Alt + マウスクリックでもフェーダーを 0 dB に設定します(Windows)。

7. ステレオリンク

'O'のいずれかをクリックすると、2 つの奇数と偶数ペアチャンネルがステレオリンクされ、シングルフェーダーのステレオチャンネルに変換されます。 アクティブにすると、この 'O' は緑色のシンボルに変わります。



注意:これらのコントロールは、"Monitor Bus" 経由のシグナルの再生にのみ影響し、DAW に録音されたシグ ナルには影響しません。 8.ミラーアウト

ミラーアウトルートは、フィジカルインプットや Aux マスターバスやモニターバスなどを、フィジカルアウト プットに直接ルーティングすることができます。

ミラーアウトをクリックするとポップアウトのリストが表示されます。 このリストから特定の入力をルーティ ングしたい物理的出力を選択できます。

ミラールーティングシステムは、以下のようなタスクに非常に便利です:

・ SSL18 をシンプルなアナログ/デジタルコンバーターとして設定する

例えば、SSL 18 を "マイクプリエキスパンダー "として使用する場合、各アナログ入力を ADAT 出力に直接 ルーティングすることができます。

・パーソナルモニターシステムへの信号供給

・ハードウェアメーターユニットへの信号供給

・リバーブなどの外部ハードウェア FX プロセッサーへの信号供給

例えば ADAT 出力 1 をミラールートで使用している場合、DAW で ADAT 出力 1 からルーティングしようとしても、ADAT 出力 1 を"No Route"に再設定しない限り機能しません。

アナログおよびデジタル入力チャンネル(44.1/48 kHz)では、各ミラールートをプリフェーダーまたはポスト フェーダーに設定できます。 88.2 kHz 以上の場合、すべてのミラールートはプリフェーダーとなります。 Aux またはモニターバスからのミラーアウトは、 常にポストフェーダーとなります。



ご注意ください- 複数の入力を同じミラー出力にルーティングすることはできません。

9. ミックスルートオフ

ミックスルートオフボタンを押すと、特定のチャンネルからのシグナルが SSL 18 ミキサーに入力されなくなり、 モニターバスや Aux バスヘルーティングされなくなります。

インプットチャンネルの場合、ミックスルートオフを有効にしても信号は DAW に送られます。

プレイバックリターンチャンネル 1-2、3-4 の場合、ミックスルートを OFF にすると、DAW やオーディオ再 生ソフトウエアから「Outs 1-2」と「Outs 3-4」に送られたオーディオが、物理的な出力 1-2 と 3-4 に送られ るのを防ぎます。 これは、プレイバックリターン 1-2 と 3-4 がフィジカルアウトプットに到達する前の最終段 階で、必ず SSL 18 ミキサーを通過するためです。

プレイバックリターンチャンネル 7-8 と 9-10 の場合 - ミックスルートオフを有効にすると、DAW やオーディ オ再生ソフトから送られたオーディオが SSL 18 Mixer に入力されなくなりますが、'Outs 7-8'と'Outs 9-10'のオ ーディオは物理的な出力 7-8 と 9-10 から送られます。 これらのアウトプットをハードウェアインサートに使用 する場合に便利です。

ミックスルートオフ を使うと便利な例: アナログ入出力 7-8 を使用してアナログアウトボード機器を接続し、 DAW のハードウェアインサートとして使用したい場合は、プレイバックリターン 7-8 とアナログ入力 7-8 の両 方でミックスルートオフにします。これによりアウトボードとの信号がダイレクトに供給されるようになり、 MON インプット 7-8 の MON ボタンを切り忘れたり (信号が 2 倍になる)、SSL 18 Mixer の Aux センドでリタ ーン (インプット) 信号を誤って別の場所に送ったりする可能性を防止できます。



トークバック

SSL 18 は、360°SSL 18 ミキサーに内蔵されたトークバック入力チャンネルを備えており、ヘッドフォンミッ クスと DAW へのフィードを直接やり取りすることができます。

1.メーター

メーターはトークバックチャンネルに入力されるシグナルのレベルを示します。 メーター上部の赤いセグメン トはクリッピングを示し、メーター部分をクリックするとクリップ表示は解除されます。 円形のメーターは、LMC によって加えられているリダクションの量を示します。

2.ヘッドフォンセンド

HPA、HPB 出力へトークバック信号を直接ルーティングできます。

- ・緑のノブは各ミックスバス(HPA、HPB)の設定レベルをコントロールするノブです。
- ・MUTE ボタンはセンドをミュートし、ミュートになると赤く点灯します。
- Pan コントロールでセンドのパンポジションを決定します。 この PAN ボタンは最初にオンにする必要があります。
- ヒント:Shift + マウスクリックでセンドを 0dB に設定します。

Option + マウスクリック (Mac) または Alt + クリック (Windows) は、センドをオフに設定します。

3.LINE 3-4 センド

ヘッドフォンセンドと同様に、LINE 3-4 センドはトークバック信号を出力 3-4 にルーティングします。 出力チ ャンネルがステレオリンクされている場合、パン、レベル、ミュートのコントロールが1 セットでコントロール 可能です。

出力チャンネルがデュアルモノにスプリットされると、出力3と出力4の独立したレベルコントロールが表示されます。

4. スクリブルストリップス

このテキストボックスは編集可能で、トークバックチャンネルの名前を変更することができます。 チャンネル上の名前を変更するには、テキストボックスをダブルクリックし希望の名前を入力してください。

5.フェーダー

赤枠フェーダーは、トークバック信号の出力レベルを設定します。フェーダーの範囲は+12 dB と-∞ dB です。

6.トークバックエンゲージボタン

緑に点灯している場合、内蔵トークバックマイクはルーティングされた Aux バス (HP A、HP B、LINE 3-4) に信号を送ります。

TALK ボタン(割り当てられている場合)、または SSL 360°のトークボタンを押すことでも制御できます。 9-10 INPUT SOURCE "を "Talkback "に設定すると、トークボタンが押されているかどうかに関係なく、 トークバック入力は常に DAW に送られます。

トークがオンの時、モニタリングセクション(DIM LEVEL)で設定したレベル分、モニターレベルは自動的に小 さくなります。

7.ゲイン、+48V & LINE

これにより +48V ファンタム電源に切り替えてトークバックマイクに電源を供給することも、 LINE 入力に切り替えることもできます。 マイクゲインは 30/40/50 dB の 3 段階に設定できます。

8.LMC

リッスン・マイク・コンプレッサーは、トークバック入力信号で作動させることができます。 このクラシックな アナログコンプレッサー回路は、もともと SL4000B コンソールで使用されていたもので、テイク録音の前後に スタジオにいるミュージシャンの言葉を聞きやすくするためのものでした。

トークバック入力で使用する場合、部屋の後ろのソファに座っているプロデューサーの声がアーティスト聞こえ やすくするのに役立ちます。

「圧縮された特徴的な」サウンドは例えば、スタジオにセットアップしたマイクをドラム用のルームマイクに使用、もしくはトークバック入力を LINE モード(TRS ジャック入力)に切り替え、DAW のステムトラックを LMC 回路で再処理する事にも使用できます。

デジタル入力

最大 16 チャンネルの ADAT 入出力を SSL18 で扱うことができ、ADAT 入力は SSL18 ミキサーに表示されま す。 2 チャンネルの S/PDIF I/O も使用可能で、S/PDIF 入力は SSL 18 ミキサーの入力チャンネルに表示され ます。

デジタルインプットにはゲインコントロールはありません。 ゲインは外部デバイスで設定してください。 モニターバス、HP A、HP B、LINE 3-4 へのルーティングは、アナログ入力チャンネルのワークフローと同じ です。

44.1/48 kHz の ADAT I/O: オプティカルポート経由で 16 チャンネル。

88.2/96 kHz の ADAT I/O:オプティカルポート経由で 8 チャンネル。

S/PDIF I/O (44.1/48/88.2/96kHz):オプティカルポート2経由で2チャンネル。

すべてのサンプルレートでの S/PDIF I/O:同軸接続経由で 2 チャンネル。

オプティカルで S/PDIF を使用するには、SSL18の設定メニューで'optical'を選択する必要があります。

— S/PDIF INTE	
Optical 🔻	Power cycle SSL 18 to apply
Optical	
Coax	

プレイバックリターン

4 つのステレオプレイバックリターンチャンネルは、DAW やその他のプログラム(アサイン可能なオーディオ 出力)から、別々のステレオ信号を入力として SSL 18 ミキサーに送ることができます。

DAW のアウトプット 5-6 は SSL 18 ミキサーには入力されませんが、外部プロセッシングチェーン用のハード ウェア出力として、DAW やソフトウェアプログラムから直接ルーティングすることができます。

チャンネルの上部、メーターの横にある'DIR' (Direct To Bus)ボタンにより、各ステレオのプレイバックリター ンは SSL 18 ミキサーのルーティングマトリックスのメインセクションをバイパスし、代わりにシグナルは対応 する Aux/Bus Master に直接送られます。

上図では、ダイレクトボタンのオン/オフを区別するため、プレイバック 9-10 が青くハイライトされています。

1. DIRECT TO BUS: MON L-R (プレイバックリターン 1-2)

DIR ボタンをオンにすると、DAW Mon L/R(Output1-2) 出力が SSL 18 モニターバス (OUT 1-2) に直接送ら れ、ルーティングマトリックスをバイパスします。

MIX ROUTES を OFF にすると、DAW やオーディオ再生ソフトウェアから'Outs 1-2'に送られたオーディオが 物理的な出力 1-2 に到達するのを防ぎます。これは、プレイバックストリーム 1-2 が物理的出力に到達する前に、 最終段階で必ず SSL 18 Mixer を通過するためです。

2. DIRECT TO BUS: LINE 3-4 (プレイバック・リターン 3-4)

DIR ボタンをオンにすると、DAW 3-4 アウトプットが SSL 18 Line 3-4 Aux Master (OUT 3-4) に直接送られ、 ルーティングマトリックスをバイパスします。

MIX ROUTES を OFF にすると、DAW やオーディオ再生ソフトウェアから'Outs 3-4'に送られたオーディオが 物理的な出力 3-4 に到達するのを防ぎます。これは、プレイバックストリーム 3-4 が物理的出力に到達する前に、 最終段階で必ず SSL 18 Mixer を通過するためです。

3.DIRECT TO BUS: HPA (再生リターン 7-8)

DIR ボタンをオンにすると、DAW 7-8 の出力が SSL 18 Headphone A Aux Master (OUT 7-8) に直接送られ、 ルーティングマトリックスをバイパスします。 MIX ROUTES OFF に設定すると、DAW から出力 7-8 に送ら れたオーディオが SSL 18 ミキサーに入るのを防ぎます。 物理的な出力 7-8 は影響を受けず、DAW から出力 7-8 に送られたシグナルを受信します。 これは、これらの出力をハードウェアインサート用に使用する場合に望ま しい設定です。

4. DIRECT TO BUS : HP B (プレイバック・リターン 9-10)

プレイバック 9-10 で DIR ボタンをオンにすると、DAW 9-10 のアウトプットが SSL 18 Headphone B Aux Master (OUT 9-10) に直接送られ、ルーティング・マトリックスをバイパスします。 有効にする MIX ROUTES OFF を有効にすると、DAW から出力 9-10 に送られたオーディオが SSL 18 ミキサーに入るのを防ぎます。 物 理的な出力 9-10 は影響を受けず、DAW から出力 9-10 に送られた信号を受信します。 これは、これらの出力を ハードウェアインサートに使用する場合に望ましい設定です。

5.MIX ROUTES OFF

MIX ROUTES をオフに設定すると、プレイバック入力信号は SSL18 ミキサーから取り除かれグレー表示になり、HPA、HPB、LINE 3&4、モニター出力 1-2 には信号がルーティングされません。

DAW の入力信号には影響しません。これは入力信号がヘッドフォンやモニターバスに供給される DAW 出力信 号にもルーティングされている場合に便利で、Aux ルーティングを変更することなく信号のダブリングを効率的 に除去し、テイクの素早い A/B 切り替えを可能にします。

6.ルーティングマトリックス

ダイレクトボタンをオフにすると、SSL 18 ミキサーから HPA、HPB、LINE 3-4 バスに信号をルーティングで きます。 入力チャンネルと同様に プレイバック入力チャンネルから各バス(HPA, HPB, LINE 3-4)へのセンド は センドレベル、パン、ミュートボタンで操作します。

7.スクリブルストリップ

このテキストボックスはプレイバックリターンチャンネルを識別するもので、デフォルトで表示される名前になっています。 このテキストボックスは編集可能で、ダブルクリックで名前を変更することもできます。

8.フェーダートレイセクション

フェーダーは、各プレイバックリターンチャンネルの モニターバスに送られるレベルをコントロールします。 (それぞれのチャンネルはダイレクトが解除され MIXROUTES OFF が設定されていない場合)

ソロ、カット、パン機能もあります。MON ボタンは信号をモニターバス(出力 1-2) にルーティングします。 これらの出力は、下図のようにステレオモードでは緑のシンボルによって示され、モノまたはステレオリンクに 設定することができます。

モノモードでは個々のレベルまたは CV 出力用にスプリットアウトすることもできます。

以下はダイレクトモードのビジュアル図解です。

わかりやすくするために、この図ではすべてのプレイバックリターンのダイレクトが有効な場合と(左側)、 ダイレクト無効(右側)を示しています。

AUX マスター

ミキサービューの Aux マスターセクションは、ヘッドフォン A、ヘッドフォン B、ラインアウト 3-4 Aux マス ターアウトプットで構成されています。

ヘッドフォン出力

各ヘッドフォン出力は、0dB から -60dB までの解像度を持つ大型のシグナルメーターで構成されています。

以下はパラメーターとフェーダーセクションの詳細です:

1.センドポスト

選択すると、チャンネルから Aux バスへの センドレベルは ポストフェーダーとなります。

2.FOLLOW MIX 1-2

モニターバスで聞いている音ソース(モニタースピーカー)をヘッドフォンに簡単に送ることができます。

3. AFL

「アフターフェードリッスン」の略称です。 Aux のミックスをメイン出力でモニターすることができます。 アーティストのヘッドフォンミックスを素早く聴くのに最適です。

4.CUT HP

Aux チャンネルの信号出力をミュートします。

5.MONO

出力をモノラルに切り替え、L/R 両方の信号を合計します。

6.フェーダー

HP Bus のマスターレベルを設定します。 これは SSL 18 のフロントパネルにある物理的なゲインコントロール の前にあります。

7.ミラーアウト

Aux マスターバスの出力を直接、フィジカルアウトプットにルーティングします。

ミラーアウトをクリックすると、ポップアウトのリストが表示されます。 このリストから、ルーティング先の 物理的なアウトプットを選択することができます。

Aux マスターのミラールーティングシステムは、以下のような場合に非常に便利です

- ・外部ハードウェアメーターユニットへの出力
- ・外部ハードウェア FX プロセッサー (リバーブなど) への出力

注意:DAW 内で ADAT 出力 1-2 ヘルーティングしたい場合、ADAT 出力 1-2 をミラールートから外してくだ さい。No Route "を選択し、ミラールートを削除します。

Aux またはモニターバスから作成されたミラーアウトルートは、常にポストフェーダーです。

ライン出力 3-4 マスター

Line 3-4 Aux マスターは、Headphones マスターと同じパラメータコントロールを備えていますが、フェーダー セクションの最下端にチャンネルリンク / アンリンクボタンが追加されています。

リンクされている場合、ボタンは緑色に光りステレオリンクを表します。

リンクを解除すると、Line3 と Line4 を独立したモノバスとして使用できます。

左:LINE 3-4 がリンクしている時、

右:LINE 3-4 がリンクされていない場合のセンドです。

リンクが解除されると、SSL 18 ミキサーのすべてのインプットチャンネルは Line 3&4 のセンドを個別のレベル とミュートに変更します。 すでに 3&4 へのセンドとして設定されている場合は、各チャンネル間ですでに設定 されているレベルがモノラルで維持されます。

SSL18 の 360° ミキサーでは、LINE3-4 出力へインプットチャンネルやプレイバックリターンからも信号を送れ ます。またミキサーの「Follow Mix 1-2」ボタンでメインアウトプットミックスを送ることもできます。

マスターアウト

OUTPUTS 1-2 (ALT スピーカーが有効な場合、OUTPUTS 3-4) を介してモニターに供給される MONITOR BUS です。

MASTER FADER レベルは、SSL 18 の物理的な MONITOR LEVEL CONTROL の前で、出力信号をコントロールします。

MIRROR OUT

モニターバスの出力を任意の物理的な出力に直接ルーティングします。

MIRROR OUT をクリックすると、ポップアウトのリストが表示されます。このリストからルーティングしたい 物理的出力を選択できます。

モニターバスのミラールーティングシステムは、以下のような場合に非常に便利です。

・外部ハードウェアメーターユニットへのフィード

・メインミックスフィードを複製して、別のモニタリング / レコーディングシステムに送信する

ミラー出力として設定した出力は、DAW からの特定の出力よりも優先します。

例えば、ADAT 出力 1-2 をミラールーティングで使用している場合、DAW で ADAT 出力 1-2 ヘルーティング しようとしても、ミラールーティングを解除しない限り機能しません。

Auxまたはモニターバスから作成されたミラーアウトルートは、常にポストフェーダーです。

モニタリング

ミキサーのこのセクションは、SSL 18 の包括的なモニタリング機能のコントロールに関係します。

1. DIM

DIM ボタンは、DIM LEVEL コントロール

2. CUT

モニターへの出力をカットします。

3. MONO

マスターアウトの左右信号をサミングし、MONO 信号をメイン出力に供給します。

4. 極性反転

左側信号の極性を反転し、左右の位相関係を検聴できます。

5. ALT スピーカーイネーブル

2 セット目のモニターをライン出力 3-4 に接続することができます。 ALT SPK が有効な場合、MONITOR LEVEL は出力 3&4 の信号レベルにも影響します。

6. ALT

ALT SPK ENABLE をオンにし、ALT ボタンを押すとマスターバス 信号を出力 3&4 へ送ります。

7. ディムレベル

ディムレベルコントロールは DIM ボタンを押したときの減衰レベルを調整します。 反時計回りに最大-60dB の減衰が可能です。

8. ALT スピーカートリム

出力 3&4 に接続された ALT モニターに送られる出力レベルを調整します。メインモニターと ALT モニター の間でレベルを調整することができるので、 モニターコントロールのレベルを変更する必要がなくなり、より 正確な比較が可能になります。

ヘッドフォン A&B 出力のモード

HP出力は2つのモードのいずれかで動作します:

- ・ヘッドフォンモード
- ・ライン出力モード

ヘッドフォンモードのオプション

ヘッドフォンモードでは、3つの異なるオプションを選択できます:

- ・標準- デフォルト設定で、様々なヘッドホンに適しています。
- ・高感度-特定のインイヤーモニター(IEM)など高感度(dB/mW)のヘッドホンに最適です。 一般的には、100 dB/mW 以上の性能を持つヘッドフォンが該当します。
- ・高インピーダンス-より大きな電圧駆動を必要とするハイインピーダンスヘッドフォンに最適です。 通常、250 オーム以上のインピーダンスを持つヘッドホンには、この設定が有効です。

注意: ヘッドフォン出力をハイインピーダンスに切り替える前に、必ずフロントパネルのレベルコントロール を下げてください。

ライン出力モードのオプション:

HPAとHPBをライン出力モードに切り替えることができます。

これによりヘッドフォン出力の代わりにモノラルライン出力として使用できます。

もし FOLLOW MIX 1-2 ボタンがオンになっていない場合、HPAへは DAW 出力 7-8 から送られます。

同様に HPB へは DAW 出力 9-10 から送られます。

デフォルトではバランスですが、アンバランスにするにはアンバランスボックスをクリックしてアンバランスに することができます。 インサート

- INSERTS ------

Use Line Output 9 as Insert Send 1

Use Line Output 10 as Insert Send 2

'ライン出力9をインサート・センド1として使用'-

[9/1 SND]と表示されている物理的出力(本体背面)を通常の動作(出力 9)からインサートセンドとして使用 するためにアナログ入力 1 のインサートセンドに変更します。

INS RTN 1 入力を併用することで、入力 1 のレコードパスにアナログハードウェアをインサートでき、アナロ グコンプレサーなどをインサートして使用できます。

'ライン出力 10 をインサート・センド 2 として使用' - [10/2 SND]と表示されている物理的出力(本体背面)を 通常の動作(出力 10)からインサートセンドとして使用するためにアナログ入力 2 のインサートセンドに変更 します。

INS RTN 2 入力を併用することで、入力 2 のレコードパスにアナログハードウェアをインサートできます。

アナログ入力 1-2 がステレオリンクされている場合、INSERT をクリックすると両方のオプションが一緒に切り 替わります。

有効にすると SSL 18 ミキサーのアナログチャンネル 1/2 で INSERT が使用可能になります。

ヒント:INSERT RTN1&2入力はラインレベル信号を直接 A/D する方法として使用することもできます。

S/P DIF インターフェース

ドロップダウンメニューで、SSL 18 の背面にある光接続と同軸接続から S/PDIF インターフェース入力を選択 できます。 変更を適用するには、SSL 18 の電源を再投入してください。

"Optical "を選択した場合、ポート2のオプティカル IN/OUT を S/PDIF デバイスに接続してください。

メーターピークホールド

SSL18 ソフトミキサーのメーターのピークホールドの長さを設定します。

- ・ピークホールドなし
- ・3 秒間ホールド
- ・クリアされるまでホールド

フロントチャンネルボタン

SSL 18 は、フロントパネルにある LINE, HPF, 4K の3つのボタンの機能をカスタマイズできます。

	FRONT PANEL BUTTONS
LINE	
	HPF HPF
-	4К 4К –
	LINE
4K	+9dBu 4K
	+9dBu

上記のように、設定メニューではLINE,HPF,4K,極性反転機能を別のボタンへ割り当てることができます。

出力動作レベル

OUTPUT OPERATING LEVEL						
+9dBu 🔻	Main Output 1-2					
+9dBu 🔻	Line Output 3-4					
+9dBu						
+24dBu						

メイン出力 1-2 およびライン出力 3-4 の動作レベルは、+9dBu と+24dBu の間で切り替えることができ、異なる モニターやアウトボードに対して適切なレベル調整を行うことができます。

出力 5-10 は+24dBu のプロフェッショナルな動作レベルに固定されており、プロフェッショナルなスタジオア ウトボード機器の統合に最適です。

MONO SUM COMPENSATION

モニターをモノラルへ変更した際にサミングの補正レベルを決定します。-3.0dBと-6.0dBの間で調整可能です。

I/O モード

SSL18 を I/O モードにすることができます。

SSL 18 MIXER

I/O Mode

I/O モードは SSL 18 Mixer のルーティングマトリックスをバイパスしルーティングを下表のように固定します。 入力 9-10 の入力ソースを選択する機能は残っていることに注意。(Loopback、S/PDIF、Talkback から選択) また、ヘッドフォン A と B をどの出力ペアから供給するかは、クリックして自由に選択できます。

I/O MODE	35	Mixer curr	ently	disabled				
INPUTS				OUTPUTS			РНС	ONES
Analogue 1-2	>	DAW In 1-2		Playback 1-2	>	Line Outs 1-2	•	•
Analogue 3-4	>	DAW In 3-4		Playback 3-4	>	Line Outs 3-4	•	•
Analogue 5-6	>	DAW In 5-6		Playback 5-6	>	Line Outs 5-6	•	•
Analogue 7-8	>	DAW In 7-8		Playback 7-8	>	Line Outs 7-8	A	•
Loopback	>	DAW In 9-10		Playback 9-10	>	Line Outs 9-10	•	B
ADAT 1-2	>	DAW In 11-12		Playback 11-12	>	ADAT 1-2	•	•
ADAT 3-4	>	DAW In 13-14		Playback 13-14	>	ADAT 3-4	•	•
ADAT 5-6	>	DAW In 15-16		Playback 15-16	>	ADAT 5-6	•	•
ADAT 7-8	>	DAW In 17-18		Playback 17-18	>	ADAT 7-8	•	•
ADAT 9-10	>	DAW In 19-20		Playback 19-20	>	ADAT 9-10	•	•
ADAT 11-12	>	DAW In 21-22		Playback 21-22	>	ADAT 11-12	•	•
ADAT 13-14	>	DAW In 23-24		Playback 23-24	>	ADAT 13-14	•	•
ADAT 15-16	>	DAW In 25-26		Playback 25-26	>	ADAT 15-16	•	•
				Playback 27-28	>	S/PDIF L-R	•	•

I/O モードは、目的に応じて使い分けることができます:

・SSL18 ミキサーが提供する完全な柔軟性を必要としない場合に、ユニットの操作を簡素化するため。

・SSL18の出力をダウンサンプリングする代わりに、176.4 または 192kHz で動作させることができます。

・I/O モードが有効でなく (SSL 18 Mixer がアクティブ)、176.4 または 192 kHz のサンプルレートで動作し ている場合、SSL 18 の出力は自動的に 88.2 または 96 kHz にダウンサンプリングされます。 他のオーディオ インターフェイスでは、同じシナリオでミキサー能力を制限するのが一般的です。

従って、エンド・ツー・エンドで 176.4kHz または 192kHz のパフォーマンスを求めるのであれば I/O モードは 有用です。 プロフィール

ユーザーは SSL 18 Mixer 用にカスタマイズされたプロファイルをセーブ、ロードすることができます。 既存のプロファイルをロードするには LOAD ボタンを押すと、保存されているすべてのプロファイルのウィン ドウが開き、'Open'を押して選択することができます。

Mac と Windows OS のデフォルトの保存場所は以下の通りです。

• Mac - Mac HDUsers

• Windows - userprofile | Documents | SSL | SSL360 | SSL18

ユーザーボタン(CUT, ALT, TALK)

デフォルトでは、ユーザーボタンは SSL 18 インターフェースのフロントパネルの印刷に合わせて割り当てられています。

各スイッチ上で右クリックするとメニューが表示され、ボタンの割り当てを変更できます。

デフォルトボタンをクリックして、SSL 18 Mixer を工場出荷時のデフォルト状態に戻します。

DIM,CUT,MONO SUM, ALT, INVERT PHASE LEFT, TALKBACK, METER SOURCE, 360° SSL18 GUI から 選択できます。

コントロール

CONTROL セクションには、DAW でインターフェイスを操作するための主要な情報が表示されます。

	CONTROL	
\sim	SAMPLERATE	
	48000	
	СГОСК	\sim
	Internal	<u> (2)</u>
\frown	LOOPBACK SOURCE	
<u>3</u>	Monitor Bus	
	9-10 INPUT SOURCE	\sim
	Loopback	(4)

1. サンプルレート

ドロップダウンメニューで、SSL 18 インターフェースが動作する内部サンプルレートを選択できます。 44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz、176.4 kHz、192 kHz を選択できます。

DAW を開くと、SSL 18 は DAW のサンプルレート設定に従います。 または、Mac の AudioMIDI セットアッ プや Windows の SSL USB コントロールパネルアプリケーションからサンプルレートを設定することもできま す。

2. クロック

クロックソースメニューでは、お好みのクロックソースを決定できます: INTERNAL, ADAT または S/PDIF。 外部 ADAT または S/PDIF デバイスからのクロックを選択した場合、外部クロックに自動ロックするため、 サンプルレートボックスからサンプルレートを変更することはできません。

3. ループバックソース

ストリーミングやコンテンツ制作に最適です。 特に、Youtube などのソフトウェア・アプリケーションからオ ーディオを録音する場合に便利です。

この設定を行うには、まず 9-10 INPUT SOURCE を「Loopback」に設定されていることを確認します。 次に、ドロップダウンメニューから録音したい LOOPBACK SOURCE チャンネルを選択します(例えば、メデ ィアプレーヤーの出力を録音する場合は Playback 1-2)。 DAW で入力チャンネルを Input 9-10 として選択します。 このチャンネルのオーディオを録音します。

DAW 上で録音チャンネルをミュートし、フィードバックループが発生しないようにしてください!

4. 9-10 入力ソース

このオプションにより、DAW 入力 9-10 の入力ソースを Loopback、S/PDIF、Talkback から選択できます。 これは、Talkback Listen Mic Compressor をドラムのルームマイクに使用する場合などの用途に使用できます。

コンテキスト・ヘルプ

? ボタンをクリックすると(上図のように)ヘルプが表示され、パラメータの機能を簡単に説明するテキストバーが追加されます。 例えば下の画像は、「SENDSPOST」の上にマウスカーソルを置くと、説明のテキストボックスが表示されます。

Solo Clear

Solo Clear ボタンは、SSL 18 ミキサーでアクティブなソロ(または AFL)を素早くクリアします。 チャンネル がソロまたは AFL の時、ボタンが黄色に点灯します。

SSL 18 DC カップリング出力

SSL 18 のすべての出力は DC カップリング(1-10、ヘッドフォン A、ヘッドフォン B)で、+/-5V の信号を送るこ とができ、セミモジュラーシンセ、Eurorack、CV 対応のアウトボード FX への CV コントロールが可能です。

CVとは?

CV とは"コントロール Voltage "の略で、シンセサイザーやドラムマシンなどのアナログ機器をコントロールする方法です。

CV ツールとは?

CV ツールは CV 対応のインストゥルメント、同期ツール、モジュレーションユーティリティのフリーパックで、 Ableton Live と Eurorack フォーマットの様々なデバイス、モジュラーシンセサイザー、アナログエフェクター をシームレスに統合することができます。

Ableton Live CV Tools のセットアップ

🔴 Ext. Audio Ef 🍟 🚱 🗎	OV Utility	
Audio To 3 Peak -Inf 0.00 dB	$ \begin{array}{c} Value \\ \underbrace{ \begin{array}{c} Value \\ 96.1\% \end{array}}_{+} \times \underbrace{ \begin{array}{c} Amount \\ 100\% \end{array}}_{100\%} \end{array} $	Depth CV To Ext. Out • 4 •
Audio From Gain 4 Peak -93.4 0.00 dB	$2 \qquad 0.00\% \times 100\% $	Offset
Phase Dry/Wet Invert Dry/Wet Hardware Latency 0.00 ms 100 %	$ \begin{array}{c} 3\\ 0.00\% \\ \hline \text{Audio} \end{array} \times \overbrace{100\%}{100\%} $	Smooth 0.00 %

- ・Ableton Live セッションを開きます。
- ・CV シグナルの送信に使用する新しいオーディオトラックを設定します。
- ・オーディオトラックに CV ユーティリティプラグインを挿入します。
- ・CV ユーティリティプラグインが開いたら、出力を指定した CV を設定します。
 この例では SSL 18 から出力 4 に設定しています。
- ・エフェクト/楽器からの入力信号で2つ目のオーディオトラックを設定し、AbletonLive に戻って入力をモニターするためにアームを録音します。
- ・ここで CV Value ノブを使用して、CV Control チャンネルの CV 信号をオートメーションできます。これを MIDI コントローラーにマッピングしてリアルタイムでコントロールする、またオートメーションをセッショ ンに録音することができます。
- ・これでオーディオを Ableton セッション、または他の DAW に録音してシステムに戻すことができます。
- ・SSL 18 を使用する場合、すべての物理的な出力が CV コントロール用の DC 信号を送ることができるため、 複数の CV ユーティリティプラグインをセットアップすることができます。

CV Tools と SSL 18 を使用すれば、同時に最大 8 つの CV コントロール信号を使用することができます。

CV ツールの要件

- ・Live 10 Suite (バージョン 10.1 以降)
- ・Live 10 Standard + Max for Live (バージョン 10.1 以降)
- ・SSL 18 のような DC 結合オーディオインターフェース (CV ハードウェア統合用)
- ・Ableton Live Packs についてある程度理解していること
- ・Live で CV 対応ハードウェアを使用する方法についてある程度理解していること
- •

SSL 18 CV のヒント

DC カップリング出力を使用する場合、注意すべき点がいくつかあります:

・出力 1-10 を CV コントロールに使用する場合、モノジャックケーブル (TS to TS) を CV コントロール機器 に接続する場合は、-10 dB のレベルトリムを適用することをお勧めします (DAW で可能)。これにより、Ableton の CV Tools でより信頼性の高いキャリブレーションプロセス (1V/oct を達成) が可能になります。

・また、出力 1~10 を CV コントロールに使用する場合、「インサート・ケーブル」(TRS から TS ジャック×2) を使用し、TRS を SSL 18 の出力に接続し、TS ジャックを CV コントロールのシンセ/FX ユニットに接続する こともできます。 このシナリオでは、-10 dB のレベルトリムは必要ないかもしれません。

・出力 7-8 と 9-10 を CV コントロール (HP A と HP B) に使用する場合は、まずフロントパネルの出力から、 接続されているヘッドホンを抜いてください。

■これらの出力を CV コントロールに使用する場合、ハイインピーダンスヘッドフォンモードまたは アンバランスにチェックを入れたライン出力モードで使用すると一般的に最も信頼できる結果をもたらすこと がわかった。

■ヘッドフォンレベルノブは信号に影響を与えるので、接続する機器に必要な最適レベルを見つけるには、多 少の実験が必要です。

ベストプラクティスと安全性

・絶対に CV を直接スピーカーに送らないでください。

・CV Instrument デバイスは、1V/oct.のチューニングにバイポーラ電圧 (+/-5V) を使用するオシレーターの校 正にのみ対応しています。 しかし、一部のデジタルオシレーターモジュールは、チューニングにユニポーラ信 号 (+5V 以上)を専用に使用します。 そのため、CV Tools はこれらのモジュールと互換性がありません。 も し、あなたのシステムのモジュールがこれに該当するかどうか不明な場合は、デバイスの取扱説明書を参照して ください。

・Eurorack の信号は、ラインレベルのオーディオの5倍の音量があることを忘れないでください! モジュラー システムをデジタルオーディオインターフェースに接続する前に、必ず専用の出力モジュールで信号をラインレ ベルまで下げてください。

仕様

特に指定のない場合のデフォルトのテスト構成 サンプルレート:48kHz、帯域幅:20Hz~20kHz 測定装置の出力インピーダンス:40Ω(不平衡 20Ω) 測定装置の入力インピーダンス:200 kΩ(不平衡 100 kΩ) 特に断りのない限り、すべての数値の許容誤差は±0.5dB または 5%です。

マイク入力 最大入力レベル:15 dBu ゲインレンジ:67 dB 周波数特性 20 Hz - 20 kHz:±0.06 dB ダイナミック・レンジ (A 特性):120 dB (代表値) THD+N (-8dBFS 入力レベル):0.01%以下 EIN (A 特性):130.5 dBu 入力インピーダンス:1.2 kΩ

ライン入力 最大入力レベル:24.1 dBu ゲインレンジ:26 dB 周波数特性 20 Hz - 20 kHz:±0.05 dB ダイナミック・レンジ (A 特性):120 dB (代表値) THD+N (-8dBFS 入力レベル):0.01%以下 入力インピーダンス:15 kΩ

楽器入力 最大入力レベル(最小ゲイン、バランス):15dBu ゲインレンジ:67 dB 周波数特性 20 Hz - 20 kHz:+/-0.05 dB ダイナミック・レンジ(最小ゲイン、A 特性):120 dB(代表値) THD+N(最小ゲイン、-8dBFS入力レベル):0.01%以下 入力インピーダンス:1 MΩ

トークバック入力 最大入力レベル (XLR):-10 dBu 最大入力レベル (TRS):24.5 dBu ゲイン (XLR):30,40,50 ダイナミックレンジ (最小ゲイン、A 特性):110 dB ダイナミックレンジ (TRS ライン、A 特性):112 dB THD+N (XLR、-1dBFS 入力レベル):0.01%以下 THD+N (TRS、-1dBFS 入力レベル):0.01%以下 入力インピーダンス (XLR):1.2 kΩ 入力インピーダンス (TRS ライン):19 kΩ

ライン出力 (1-4) 最大出力レベル (ハイレベル、バランス):24.1 dBu 最大出力レベル (ローレベル、バランス):9 dBu 周波数特性 (両出力レベル):+/-0.05 dB ダイナミック・レンジ (ハイレベル、A 特性):125 dB ダイナミック・レンジ (ロー・レベル、A 特性):122 dB THD+N (-10dBFS 出力レベル):0.01%以下 出力インピーダンス:150 Ω

ライン出力 (5-10) 最大出力レベル (ハイレベル、バランス):24.1 dBu 周波数特性 (両出力レベル):+/-0.05 dB ダイナミック・レンジ(ハイレベル、A 特性): 125 dB THD+N (-10dBFS 出力レベル): 0.01%以下 出力インピーダンス: 150 Ω

インサートセンド 周波数特性(両出力レベル):±0.05 dB ノイズレベル (アナログノイズ、20Hz-20k、A 特性):-96 dB THD+N (20dBu 時):0.01%以下

インサートリターン 最大入力レベル (バランス):24 dBu 周波数特性:+/-0.05 dB ダイナミック・レンジ (A 特性):120 dB THD+N (20dBu 時):0.01%以下 入力インピーダンス:10 kΩ

ヘッドフォン 出力レベル:0dBu、10dBu、18dBu 周波数応答:±0.07 dB ダイナミック・レンジ(A 特性):120 dB THD+N(20dBu 時):0.01%以下 出力インピーダンス:<1 Ω

重量と寸法 寸法: 幅:482.6 mm / 19 インチ 高さ:43.6 mm / 1.7 インチ 奥行き:フロントパネルコントロールとリアパネルコネクター含む: 294mm / 11.6 インチ 奥行き:フロントパネル・コントロールとリアパネルコネクターを除く: 257.8mm / 10.1 インチ

箱なし重量 3.76kg 箱入り寸法 幅:630 mm / 24.8 インチ 高さ: 100 mm / 2.9 インチ 奥行き:360m / 14.2 インチ 箱入り重量 5.78kg 最大消費電力:30W

動作環境

2000m を超える高度で使用した場合、安全上の問題が生じる可能性があります。

熱帯の気候条件下で使用した場合、安全上の問題が生じる可能性があります。 温度:動作中 +1℃~40°C 保管時:-20℃~50℃ トラブルシューティング、FAQ、重要な安全注意事項 よくある質問とその他のサポート窓口は、ソリッド・ステート・ロジック・サポートウェブサイトをご覧くださ い。

安全上の注意

- ・この説明書をお読みください。
- ・この説明書を保管してください。
- ・すべての警告に注意してください。
- ・すべての指示に従ってください。
- ・本機を水の近くで使用しないでください。
- ・お手入れは乾いた布で行ってください。
- ・ラジエーター、ヒートレジスター、ストーブ、その他の熱を発する機器(アンプを含む)の近くには設置しないでください。
- ・雷が鳴っているときや長時間使用しないときは、本機の電源プラグを抜いてください。
- ・メーカーの指示に従って設置してください。
- ・メーカーが推奨するアタッチメント/付属品のみを使用してください。
- ・修理はすべて資格を持つサービス担当者に依頼してください。本機に何らかの損傷が生じたとき(本機の中に液体をこぼした、物を落とした、本機が雨や湿気にさらされた、正常に動作しなかった、落下したなどの場合)は、修理が必要です。
- ・本機を改造しないでください。改造は、性能、安全性、および/または国際準拠規格に影響を与える可能性があります。
- ・本装置に接続されているケーブルに負担がかからないようにしてください。ケーブルを踏んだり、引っ張ったり、つまずいたりしないようにしてください。

SSLは、許可されていない者によるメンテナンス、修理、改造によって生じた損害については責任を負いません。 警告:聴覚障害を防ぐため、大音量で長時間使用しないでください。 音量レベルを設定する目安として、ヘッド ホンで聞きながら普通に話すと、自分の声がまだ聞き取れるかどうかを確認してください。

電磁両立性

EN 55032:2015、環境 クラス B、EN 55103-2:2009、環境: E1 - E4。

RoHS 通知

ソリッド・ステート・ロジックは、欧州連合(EU)の有害物質規制(RoHS)指令 2011/65/EU に準拠し、本製

品は RoHS に関連するカリフォルニア州法の以下の条項、すなわち健康安全法第 25214.10 条、第 25214.10.2 条、 第 58012 条、公共資源法第 42475.2 条に適合しています。 ソリッドステートロジックジャパン株式会社

〒151-0051

東京都渋谷区千駄ヶ谷 3-55-14